

令和8年度 学力向上アクションプラン

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	+6	+8	+14	令和8年度の目標	+4.0	+4.0	+2.5	+4.0	+7.0	+10.0	+9.0	+10.0	
令和7年度の結果	+11	+12	+23	令和7年度の結果	-0.5	+2.7	+4.0	+8.6	+6.4	+10.1	+9.3	+13.7	
令和6年度の結果	+5	+7	+12	令和6年度の結果	+3.0	+3.6	+5.9	+4.9	+7.8	+15.6	+7.1	+10.0	
令和5年度の結果	+3	+4	+7	令和5年度の結果									
年度	令和7年度			令和8年度									
内容	成果と課題			目標		目標達成に向けた取組							
学校全体	【成果】 ・全国学力・学習状況調査では、国語・算数とも都平均を10ポイント以上、上回ることができた。 ・江戸川区学力調査では、6年生以外は経年推移でAB層の割合を上昇させることができた。 【課題】 ・江戸川区学力調査では、その学年も「知識・技能」に比べて、「思考・判断・表現」の平均正答率が低い。 教科や学年によっては30%程度の差が見られる。			・江戸川区学力定着度調査、東京ベーシックドリルで、80%以上の児童がの平均正答率80%以上を達成する。 ・江戸川区学力調査で、経年推移でAB層の割合を上昇させる。 ・全国学力・学習状況調査の「授業時間以外の勉強時間」で学年×10+10分以上と回答する児童を80%以上とする。		・毎週金曜日の朝学習で、個に応じた学習内容を設定する。 ・よむYOMUワークシートを前日に家庭学習で音読するなど工夫して実施し、国語力の向上を図る。 ・「江戸川っ子study week」を年3回実施し、【学年×10+10】分間の家庭学習習慣が身に付くよう協力を呼び掛ける。また、ドリルパークの活用を推進する。							
第1学年	【成果】 ・算数では、知識・技能面は、身に付いている児童が多い。 【課題】 ・国語では、語彙の少なさ等から、文章の内容を理解できない児童がいる。 ・算数では、文章題の読み取りが難しい児童がいる。			①（国語）文章から具体的な様子を読み取れるようにする。 ②（算数）文章題を正しく捉え、立式できるようにする。 ③（算数）くり上がりとりくり下がりの加法・減法を全員に定着させる。		①読書や音読とおして語彙を増やし、文章の内容を理解することにつなげる。 ②図や絵、タイルを活用して、問題場面を捉え、立式できるようにする。 ③10のまとまりを意識して、計算できるようにする。							
第2学年	【成果】 ・1月の東京ベーシックドリル（算数）では、11月に比べて、全ての大問で正答率が上がり、平均正答率は83.4%となった。間違えやすい問題に、朝学習で繰り返し取り組んだことが成果につながった。 【課題】 ・国語では、自分の考えを分かりやすく伝えることが苦手な児童が多い。 ・算数では、九九の定着が不十分な児童が1割程度いる。			①（国語）文章から具体的な様子を読み取れるようにする。 ②（算数）九九を確実に定着させる。 ③（算数）苦手な「時刻と時間」の分野を定着させる。		①叙述を基に心情を捉える。接続詞に注目させる。 ②単元を入れ替え、かけ算を9月から学習する。音声での暗唱ではなく、式と答えとして暗唱できるようにする。 副担任や学年アシスタント、保護者の協力、アプリの活用をしながら、九九の定着を図る。 ③日常的に時計を意識させる。							
第3学年	【成果】 ・江戸川区学力調査において、算数は全国平均を上回った。東京ベーシックドリルの復習を繰り返すことで、基礎基本が定着してきた。 【課題】 ・江戸川区学力調査において、国語は全国平均を下回った。特に「言葉・情報・言語文化」の領域で、全国平均を2.9ポイント下回った。			①（国語）自分の考えを順序立てて話したり、書いたりできるようにする。 ②（算数）文章題の内容を捉え、立式や答えの意味を、自分の言葉で説明ができるようにする。 ③（算数）全員に九九を定着させる。単位換算を確実にする。		①「読むこと」で学習した文章構成を、「書くこと」や「話すこと」に活用できるようにする。話し合い活動では振り返りを実施して、分かりやすい伝え方について習得できるようにする。 ②図示するなどして問題場面を的確に捉えられるようにする。自分の言葉で考えをまとめる時間を確保する。 ③習熟度が下位のコースでは、授業の初めに九九に取り組む。朝学習等を活用して、「測定」領域の復習に繰り返し取り組む。							
第4学年	【成果】 ・江戸川区学力調査において、国語では「読むこと」、算数では「数と計算」「図形」領域において、全国平均を8～10ポイント程度上回った。自分の言葉で表現できるように学習展開を工夫してきた。 【課題】 ・江戸川区学力調査において、国語では「書くこと」、算数では「測定」領域において、正答率が低い。学力定着度調査においても、「いろいろな単位と測定」分野が伸び悩んだ。			①（国語）語彙を増やす。 ②（国語・算数）自分の考えを書くことができるようにする。 ③（算数）4年生の学習内容だけでなく、適宜既習事項を振り返り、特に3年生までの「測定」領域、「図形」領域の正答率を上げる。		①国語科の「漢字の広場」にて、文章の中で使える漢字を増やす。国語科以外の学習でも、言葉と言葉や、言葉と事象を関連付けて指導する。ドリルパークを活用し、自分に適した課題に取り組ませる。 ②話し合い活動を有効に設定することで、友達の見解も取り入れながら自分の考えをまとめられるようにする。 ③既習事項と関連付け、できるだけ具体物を用いながら考えられるようにする。4年生で学習しない領域についても、朝学習等で適宜復習をする。							
第5学年	【成果】 ・江戸川区学力調査において、国語、算数とも応用問題にて、全国平均を12～13ポイント上回った。自分の考えをまとめられるように、ノート指導を丁寧に行ってきた。 【課題】 ・江戸川区学力調査では、国語では「書くこと」、算数では「数と計算」領域において、正答率が低い。小数や分数の四則計算が定着していない児童が1割程度いる。			①（国語）語彙を豊富に自分の考えを文章に表せるようにする。適切な問いをもって文章を読むことができるようにする。 ②（算数）問題の数量関係を正しく捉え、立式できるようにする。 ③（算数）小数や分数の四則計算をミスなくできるようにする。		①文章の中で言葉の意味を理解できるようにして、語彙を増やしていく。目的を明確にした話し合い活動を行い、自分の考えを広げられるようにする。既習事項の振り返りを行い、適切な問いを立てられるようにする。 ②線分図を有効に活用して、立式できるように、繰り返し指導する。 ③習熟度が下位のコースでは、レディネステストでのつまづきを基に授業の初めに計算問題を実施する。							
第6学年	【成果】 ・江戸川区学力調査において、特に算数の応用問題では、全国平均を18ポイント上回った。自分の言葉で考えを説明したりまとめる学習を重視してきた。 【課題】 ・江戸川区学力調査において、算数の「数と計算」領域において、全国平均を下回っている設問がある。分数の四則計算が定着していない児童が1割程度いる。			①（国語）文章量が多くなっても、適切なスピードで全文を読み、大体的内容を把握できるようにする。 ②（算数）問題場面を適切に捉え、立式できるようにする。 ③（算数）小数の割算において、桁が多くなっても正確に計算できるようにする。		①「よむYOMUワークシート」の取り組み方を変更し、速読で解けるようにする。国語の「読むこと」である程度の分量をまとめて音読したり、内容把握をしたりするようにする。 ②図示するなどして問題場面を的確に捉え、答えの見当を付けてから、立式や計算に進むようにする。 ③ノートのマスを使って、大きくスペースを取って計算することを徹底する。							